



医師不足地域を支える医師



菊川市立総合病院
内科診療科長
富永 宏睦 先生

自分が所属する菊川市立総合病院には、菊川市をはじめ、近隣市町の多くの住民が受診にみえます。自分は循環器内科が専門で、心不全、不整脈、虚血性心疾患、弁膜症といった分野に対し、同僚と意見を出し合いながら診療を行っています。しかし、総合病院といっても病院の規模は小さく、高度な医療体制は整っていません。更に全ての専門科がそろっているわけではなく、地域密着型の医療を求められる当院の特性から、全般的な内科系診療が主となっているのは事実です。循環器は診療の一部に過ぎず、専門外、場合により内科系以外についても診療を求められます。これは少々大変ではありますが、教科書を開き、色々な患者さんを実際に診て、診療技術や知識を習得しています。こうして求められる事は医師としての研鑽を積む絶好の機会でもあり、新しい知識への欲を満たしてくれる良い環境ではないかと思えます。一方、労働環境は大学病院や都市部の大規模な病院とは異なった大変さがあります。マンパワーが乏しく、地域医療には未解決な問題が非常に多く、思った様に仕事ができないときもあります。逆に考えると、その問題を自身が主導で解決しようとするのでできるチャンスがあり、何が足りないのか、どうすれば解決できるのか、患者さんや家族に喜ばれる医師になれるのか、考えながら仕事ができます。小規模病院だからこそ院内の横のつながりが強く、さまざまな医療職の皆さんと顔見知りであり、治療の事以外のいろいろな知識をもった頼られる医師に成長させて貰えます。こうした中、さまざまな分野の患者さんを経験することで、専門医の取得は容易であり、高度な技術の習得を除けば、専門医としての研修も十分可能です。もちろん子育て世代の自分自身、月に平均10回のfirst callをこなしつつも、子供の学校の行事にはちゃんと参加し、『お父ちゃん』としての面子を保っていると確信しています。